

6 章 2016 年度 COC+事業

3 大学合同報告会「プラットフォーム」

COC+就職説明会

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 COC+「子育て高齢化対策」領域シンポジウム

平成28年度

神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学 3大学合同報告会「プラットフォーム」

平成28年10月15日(土) 参加無料/定員140席

開場 13:00 開会 13:30

会場

園田学園女子大学 3号館2階 321教室

- 〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1
 ・阪急「塚口駅」南出口より徒歩10分
 ・阪急「塚口駅」からバス 園田学園女子大学下車 徒歩1分
 ・阪神「尼崎駅」からバス 南塚口町1丁目下車 徒歩1分
 ・JR「立花駅」からバス 園田学園女子大学下車 徒歩1分

目的

兵庫県は少子高齢化に伴う人口減少が加速しており、地域での子育て支援や高齢化対策は急務である。

兵庫県内で医療福祉専門職養成課程を有する3大学が連携し、これまで各大学が培ってきた地域社会形成のための教育研究の成果・知見を持ち寄り、情報共有を図る。



第1部 シンポジウム「みんなで考える少子高齢化社会」

神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学より、それぞれの大学での取り組みを踏まえながら少子高齢化社会の現状や子育て支援・高齢化対策の実際について解説する。

演題：

- ① 「少子化と子育て支援」
- ② 「高齢化と地域コミュニティ」
- ③ 「地域資源としてのひと・もの・ことー記憶とまちづくり」

第2部 ポスター掲示・情報交換会

各大学の活動をポスター掲示し、参加者が情報交換を行う。

第3部 学生の部 「各大学における地域での取り組みと成果報告」

各大学の学生が、地域での活動や取り組みの紹介、活動から得たことについて報告する。

地方創生に関する文部科学省の公募事業で、兵庫県では「地方創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」事業が採択されました。
事業協働機関が一体となって地域の課題解決に取り組みます。

地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業
COC+とは？？

事業協働機関(ひょうご神戸プラットフォーム協議会)
神戸大学・兵庫県立大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学
兵庫県・神戸市・神戸商工会議所・兵庫県経営者協会・兵庫工業会・神戸新聞社



主催：神戸大学医学部保健学科・地域連携センター、神戸市看護大学、園田学園女子大学

共催：ひょうご神戸プラットフォーム協議会

後援：尼崎市、尼崎市教育委員会、尼崎市社会福祉協議会、尼崎商工会議所



Program

開会挨拶

13:30 開会

川島 明子 (園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部 学長)

高田 哲 (神戸大学大学院保健学研究科地域保健学領域 教授・地域連携センター長)

みんなで考える少子高齢化社会

座長：野呂 千鶴子 (園田学園女子大学人間健康学部 教授)

「少子化と子育て支援」

13:40 シンポジウム

高田 哲 (神戸大学大学院保健学研究科地域保健学領域 教授・地域連携センター長)

「高齢化と地域コミュニティ」

相原 洋子 (神戸市看護大学地域連携教育・研究センター 准教授)

「地域資源としてのひと・もの・こと -記憶とまちづくり-」

大江 篤 (園田学園女子大学人間教育学部 教授・地域連携推進機構副機構長)

総合討論

15:10 休憩 / ポスター掲示・情報交換会 (@3号館1階ラーニングコモンズ)

各大学における地域での取り組みと成果報告

座長：林 敦子 (神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域 准教授)

「子どもの生活体験と子育て支援 -子育てサークル“やんちゃんこ”的取り組み-」

朝見明日香・射場美里・勝川優衣・清田貴美代・坂上萌・出道さつき・黒川聖未
(園田学園女子大学人間教育学部 3年生)

「尼崎市立杭瀬小学校における認知症センター養成講座の試み」

16:00 学生の部

上園真由実・木野怜奈 (園田学園女子大学人間健康学部 4年生)

「神戸市看護大学ボランティア部の取り組み」

西田朝・藤本綾香・前田香澄・松浦千裕 (神戸市看護大学 学生)

「地域高齢者への取り組み -高齢者の運転に焦点を置いて-」

松田直佳 (神戸大学医学部保健学科理学療法学専攻 4年生)

「発達支援教室“ぽっとらっく”的取り組み」

鈴木千晶 (神戸大学大学院保健学研究科地域保健学領域 修士1年生)

16:50 閉会

閉会挨拶

石原 逸子 (神戸市看護大学基礎看護学領域 教授)

参加申し込み：締め切り 10月7日(金) 17:00まで

申し込み書にご記入の上、FAX(078-796-4526)にお送りください。

E-mailでの申し込みをご希望の場合は、メール本文に申し込み書の情報をご記入の上、
メールアドレス(hokencocplus@gmail.com)までお送りください。

平成28年度 3大学合同報告会 参加申し込み書 (FAX : 078-796-4526)

(フリガナ) 氏名	
ご所属	
ご連絡先	電話 :
	FAX :
	E-mail :

«お問い合わせ»

神戸大学保健学研究科地域連携センター (担当者: 藤本)

住所: 〒654-0142 兵庫県神戸市須磨区友が丘7-10-2 神戸大学大学院保健学研究科C405

TEL&FAX: 078-796-4526 E-mail: hokencocplus@gmail.com



MUSUBU

3大学合同報告会 プラットフォーム

2016年10月15日（土）園田学園女子大学に於いて、神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学による合同事業報告会を開催しました。第一部「みんなで考える少子高齢社会」では、各大学の教員からの「少子化と子育て支援」「高齢化と地域コミュニティ」「地域資源としてのひと・もの・ことー記憶とまちづくり」をテーマにした講演の後、少子高齢化の地域の取組みについて活発な意見交換が行われました。第二部は各大学の取組みに関するポスター掲示を行い、学生間の交流の機会となりました。第三部は「各大学における地域での取組みと成果報告」として、それぞれの大学の学生が中心となり地域での活動についての報告を行ないました。本学からはボランティア部の藤本綾香さん（3回生）、西田朝さん、前田香澄さん、松浦千裕さん（1回生）が、月1回のHAT神戸でのボランティア活動について発表を行いました。

HAT神戸での活動は、阪神淡路大震災の後に、神戸市看護短期大学の学生が健康支援を行ったのを継いで実施しています。学生は、認知症間違い探しなどレクリエーションを担当していることなどが紹介されました。HAT神戸では、独居高齢者が多く、今後より参加者が多くなること、また地域包括ケアとしての支援を行っていきたい、ということが発表されました。



会場からは、「地域の居場所となっている」という意見や「ボランティアとして継続できる理由は？」という質問が出されました。

「自分の得意なことを教えるなど、楽しみを見出している人姿を見るのが楽しい」「まだ数回しか行っていないのに、自分のことを覚えてくれているのが嬉しい。高齢者と話す機会をたくさんもつのは、看護師となるのに役立つのではないかと思っている」「2年、3年生へと進級すると、住民さんの血圧などを測定する科目がある。そのような経験を早いうちから学べること。また高齢者の方は病気などたくさんの知識を持っていて、自分たちに教えてもらえること」「ボランティアは、提供することだけと思っていたけど、自分にも得ることがある」ことが、ボランティアを続けていくきっかけになっているようです。

就職説明会に訪問看護師をお招きしました

本学 COC 事業では、4つの取組みの一つに「訪問看護の人材育成」を掲げています。また平成 27 年度の COC+事業「ひょうご神戸プラットフォーム」では、本学は COC+参加大学として兵庫県の地域の課題解決に資する人材の育成、地元定着を目指した取組みを行なっています。神戸市は政令指定都市の中で、在宅で亡くなる方の割合が最も高い割合となっています。在宅での看取りや療養生活を支えるうえで、訪問看護師の役割は非常に重要でありそのニーズも高くなっています。また訪問看護ステーションの数は、神戸市は全国 5 番目の多さです。本事業では、看護職者となる長いスパンの中で、訪問看護の新たな看護キャリアを積むことができるよう、3 年生を対象とした就職説明会において現役の訪問看護師 2 名をお招きし、訪問看護師としての経験談を語っていただきました。

- 就職説明会開催日：2016 年 12 月 19 日（月）
- 対象学年：3 年生
- 講師：在宅緩和ケアセンター ホスピス 高谷 麻美子さん
訪問看護ステーション あさんて 岡田 梨佐さん



お二人とも病院で 8 年、10 年という経験を積まれた後訪問看護師になられています。その経験を活かしたうえで「寄り添う看護」の大切さや、看取りの経験から亡くなっていく過程を自然に受け入れられるようになった、というお話ををしていただきました。

講演の後に座談会では、参加した 2 名の学生からは子育てとの両立、給与体制、研修などの具体的な勤務体制から、病院勤務とは異なる点などの質問が出ました。また長く看護師として働くうえで、訪問看護師としてのキャリアを積み上げていくことに関する意見も出ました。

